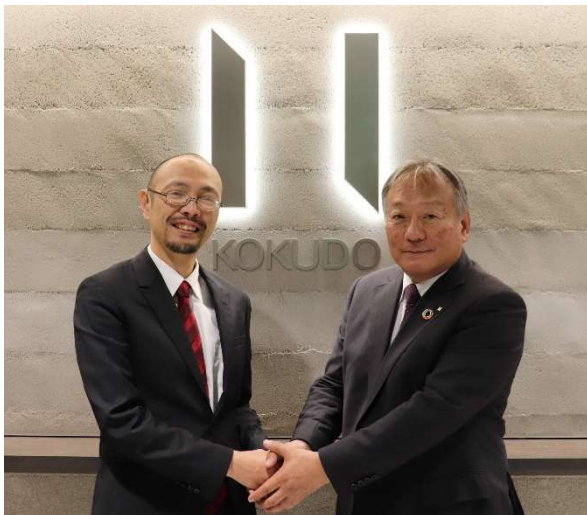


2024年6月12日

日本国土開発版「生成AI利活用ガイドライン」を策定

日本国土開発株式会社（所在地：東京都港区、代表取締役社長：林伊佐雄）は、国立大学法人筑波大学（所在地：茨城県つくば市、学長：永田恭介、以下筑波大学）との共同研究のもと、日本国土開発版「生成AI利活用ガイドライン Ver.1.0」を策定しました。

今後、このガイドラインを用いて、文章生成AIの安全な利用指針と全社員の日常業務への活用を見据え構築された多様なユースケースを社内展開し、生成AI技術の普及と活用促進により、現場業務を始めとするあらゆる企業活動へのDXの浸透を目指していきます。



日本国土開発版「生成AI利活用ガイドライン」の表紙

筑波大学の岡田幸彦教授(左)と当社社長の林伊佐雄

■ ガイドライン策定の背景

日本国土開発では、「中期経営計画2024」において「『独自の強み』を創る」をミッションとして掲げており、「建設を『人』から『機械』へ」をテーマに企業活動のあらゆる業務のDXを目指しています。

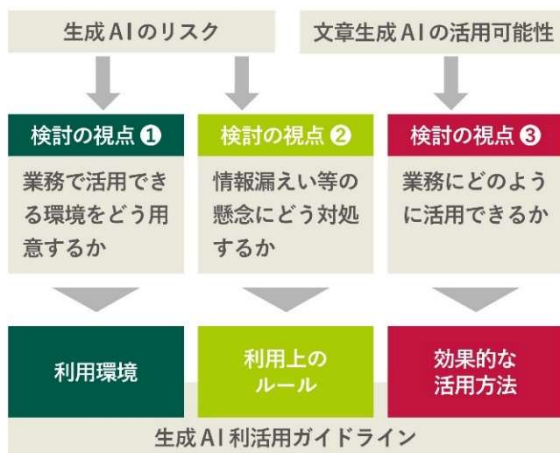
2022年6月に新設されたDX推進室では、デジタルツールを用いた業務の効率化に取り組んでおり、発足当初から生成AIの利活用の検討を進め、2023年12月に生成AIの社内活用のための取り組みとして「生成AIガイドライン策定ワークショップ」プロジェクトを立ち上げました。そして、「東京都文章生成AI利活用ガイドライン」策定に関わられた筑波大学システム情報系／人工知能科学センター 岡田幸彦教授をはじめとする経営・法律・産業等を専門とする複数の先生方の監修のもと、日本国土開発の業務環境に合わせた文章生成AIガイドラインを作成しました。

なお、DX推進室は本年6月1日付の組織改編により、情報活用のための戦略を立案・実行する「デジタル技術推進室」となりました。

■生成AI利活用ガイドラインについて

日本国土開発版「生成AI利活用ガイドライン」は、Microsoft社の生成AIツール「Copilot」の使用を基本とした利活用ガイドラインです。ガイドライン策定を行ったプロジェクトチームは、各本部からメンバーを募り、部署や部門の垣根を越えて議論を重ねてきました。アプローチとしては、生成AIのリスクの検証と、文章生成AIの活用可能性を検討することでした。それらの議論から①利用環境、②利用上のルール、③効果的な活用方法について取りまとめ、日本国土開発版「生成AI利活用ガイドライン Ver.1.0」を策定しました。

生成AI利活用ガイドラインのアプローチ



生成AI利活用ガイドラインの内容

Chapter 1 文章生成AIについて	・文章生成AIとは何か、その性質と位置付け ・ガイドラインの方向性における3つの視点
Chapter 2 利用環境	・Microsoft社の「Copilot」を利用し、社員が安全に業務に活用するための利用方法 ・Copilot以外の生成AIの社内利用方法
Chapter 3 利用上のルール	・許可された環境下での生成AI利用の約束事 ・社員が守るべきルール
Chapter 4 効果的な活用方法	・生成AIから効果的に回答を得るためのプロンプト方法 ・作業段階ごとにユースケースを分類し、業務活用の浸透促進
Chapter 5 今後の展望	・現場で役に立つ文章生成AIユースケースの募集・拡充 ・生成AIや新技術を活用した現場効率化のための技術開発など透促進

※別冊の文章生成AI利活用ユースケース集も作成

■筑波大学 システム情報系／人工知能科学センター 岡田幸彦教授のコメント

生成AI技術は短期間で急速に発展し、誰もがイノベーターになれる革新的な可能性を秘めています。しかし、情報保護や知的財産権に関する課題、さらには生成AIが人々の仕事を奪うのではないかという懸念もあります。こうした課題に対し、企業、政府、教育機関がその本質を理解し、具体的な使い方やリスクへの対応を含めて検討することは大変価値のある取り組みと言えます。今回、全社横断的なワークショップメンバーが集まったことで、ガイドライン策定のみならず組織を超えた知の融合と人材育成にもつながる取り組みとなりました。この活動を通して企業の現実的な課題意識を理解し、今後の研究に活かしていきたいと考えています。

■日本国土開発株式会社 代表取締役社長 林伊佐雄のコメント

国内の建設業は中堅技術者の不足により技術伝承が課題となっています。このような中、生成AIガイドラインを社内リリースしました。今後、業務への生成AIの導入を推進し、社内データ活用による技術伝承を図っていきます。私は、常々社員に「安・正・早・楽」という言葉を伝えています。これは、安全に正しい品質のものを早く造る、そして仕事を楽しく、楽にするという意味です。業務が楽になると効率が向上し、次のステップの仕事がしたくなるものです。今後も生成AIや新技術を取り入れ、DXの取り組みを加速していきたいと考えています。

この件に関するお問い合わせ先

日本国土開発株式会社 サステナビリティ経営本部戦略部 電話: 050-1735-9468



日本国土開発 生成AI利活用ガイドライン 概要版



Chapter 1 文章生成AIについて

- 文章生成AIとは何か、その性質と位置付け
- ガイドラインの方向性における3つの視点



Chapter 2 利用環境

- Microsoft社の「Copilot」を利用し、社員が安全に業務に活用するための利用方法
- Copilot以外の生成AIの社内利用方法

Chapter 3 利用上のルール

- 許可された環境下での生成AI利用の約束事
- 社員が守るべきルール

ルール1 個人情報、機密性の高い情報は入力しない
ルール2 著作権保護の観点から、生成物を入念に確認
ルール3 生成AIの回答の根拠や裏付けを必ず自ら確認
ルール3付帯事項
生成物を対外的に使用する場合は生成AIを利用した旨を必ず明記

Chapter 4 効果的な活用方法

- 生成AIから効果的に回答を得るためのプロンプト方法
- 作業段階ごとにユースケースを分類し、業務活用の浸透促進

調べる／アイデアを出す／作る／直す

(別冊) 文章生成AI利活用ユースケース集

- 部門横断的に募集したプロジェクトメンバーが中心となり、各部門の業務分野での実用を想定した『ユースケース集』を作成
- 各部門での業務利用を想定した25のユースケースを収録

Chapter 5 今後の展望

- 現場で役に立つ文章生成AIユースケースの募集・拡充
- 生成AIや新技術を活用した現場効率化のための技術開発など

※日本国土開発 生成AI利活用ガイドラインは東京都デジタルサービス局発行『文章生成AI利活用ガイドライン』を参考に作成されています。